

平成 26 年 6 月 20 日現在

機関番号：42505

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2013

課題番号：24730498

研究課題名(和文) ドイツ語圏における赤ちゃんポストと緊急下の女性に関する研究

研究課題名(英文) A study on Babyklappe and woman in need in the German-speaking countries

研究代表者

柏木 恭典 (Kashiwagi, Yasunori)

千葉経済大学短期大学部・その他部局等・准教授

研究者番号：80461771

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,800,000円、(間接経費) 540,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の成果として、まず2013年5月に、『赤ちゃんポストと緊急下の女性 - 未完の母子救済プロジェクト -』を完成させ、上梓した。20万字以上にのぼる研究書として、公的な研究成果を残すことができた。

本研究を通じて、ドイツにおける赤ちゃんポストの実情、そしてその背景、また赤ちゃんポストの是非を巡る議論をまとめ、その根源に「緊急下の女性」への支援の問題が潜んでいることを明らかにできた。

研究成果の概要(英文)："the Babyklappe(Baby Hatch) and woman in need - Incomplete mother and child support project" was first completed as a result of this study that published it in May, 2013. Study results were able to be left as a research book that rose to 200,000 characters or more.

It was able to be clarified that the discussion over right or wrong of the fact of the baby post, the background, and the baby post in Germany was brought together, and the problem of support to "Woman under the emergency" lurked in the root through this research.

研究分野：社会学

科研費の分科・細目：社会福祉学

キーワード：社会福祉 児童福祉 教育学

1. 研究開始当初の背景

研究開始当初は、赤ちゃんポストを利用するような女性、妊婦についての言説はほとんどなく、赤ちゃんポストという話題性ばかりが注目されていた。しかし、ドイツでは既に一連の匿名支援の現状に対して法的根拠を与えよう、という動きまで見られるほどまでに展開していた。そうした中で、まずはドイツの赤ちゃんポストに関する研究の言説を包括的に捉え、その内実を明らかにする必要がある。

2. 研究の目的

緊急下のもろもろの状況にある女性(「緊急下の女性」)による児童遺棄や児童殺害を防止するために1999年から2000年にかけてドイツで設置された赤ちゃんポストとそれにかかわる実践とその理論を明らかにすることを目的とした。ドイツ語圏全域の新たな児童福祉、児童養護、児童救済システムの取り組みとして考案された赤ちゃんポストは、妊婦や母子の SOS ホットラインと匿名出産との関連の中で生み出されてきた。本研究は、この三つの新たな試みがどのように機能し、どのように関連し合い、その中で実際にいかなる支援がどの程度行われているのかを解明することを試み、このことに関して、法学、心理学/教育学的な見解の相違について分析した。

3. 研究の方法

ドイツ語圏 - ドイツ・オーストリア・スイス - の(赤ちゃんポストを含む)母子救済プロジェクトを行っている団体へのインタビューを中心とした実地調査と、そのプロジェクトにかかわる実践者や研究者からの聞き取りを行った。そこで得られたデー

タと最新の関連文書、学術論文、学位論文とを重ね合わせ、現在、いかなる課題や問題が生じているのか、またそれに対していかなる立場からいかなるアプローチがなされようとしているのかを明らかにした。

また、赤ちゃんポストに子を預けた母親との接触を試み、このプロジェクトがもたらした様々な影響について分析した。また、キリスト教女性協会をはじめとする団体への接触から、キリスト教と赤ちゃんポストの関連を明らかにすると共に、中世ヨーロッパから続く女性救済活動の宗教的意味づけを行った。

4. 研究成果

平成24年度は、8月まで主にこれまでの先行研究を体系的にまとめ、それぞれの学問領域で赤ちゃんポストを含む母子救済プロジェクトをいかに評価し、いかに結論付けているのかを整理した。

その上で、8月に訪欧し、それぞれの立場の研究者からの聞き取り・インタビューを行った。またそれと同時に、赤ちゃんポスト設置各団体を訪問し、データ収集を行った。ハンブルクのシュテルニバルク、リュベックのアガペーの家、ケルンのアーデルハイドの家、などである。

これらを年内にまとめ、さらに冬に再度同様の調査を行った。その研究経過は、翌年秋に所属する学会(日本理論心理学会)で発表した。

また、平成25年3月には、国内唯一の赤ちゃんポスト「こうのとりのゆりかご」を設置した熊本慈恵病院理事長の蓮田太二氏へのインタビュー調査も行った。ドイツのみならず、日本国内の赤ちゃんポストがどのように運営されているのかについても、拙著(『赤ちゃんポストと緊急下の女性 - 未完の母子救済プロジェクト』、第九章)で明

らかにした。

平成 25 年度は、平成 24 年度に蓄積されたデータや資料を基に、本研究者の立場である教育学・児童福祉学の視点からの解明を行った。この赤ちゃんポスト問題が、母子やその子育てを支える行政機関（主に児童相談所）や各学校機関に投げかけているものを明らかにし、さらに現行の支援体制の反省を試みた。

また、ドルトムント大学のウーレンドルフ(U.Uhlendorf)氏からも、社会教育学的見地からの指導を実際に受けた。ドイツの社会教育学と赤ちゃんポストをはじめとする匿名の母子支援プロジェクトには、その根底において深い関連があることが分かってきた。

また、前年度同様に、母子救済プロジェクトを行っている各団体へのインタビュー調査も継続して行った。夏の訪欧では、シュテルニパルクの現代表であるライラ・モイツイヒ氏との対談、インタビューも実現できた。

これらの研究の成果として、平成 26 年 3 月に、この問題を包括する研究報告書を作成した。

また、平成 25 年 5 月に、『緊急下の女性と赤ちゃんポスト - 未完の母子救済プロジェクト』(北大路書房)を出版し、本研究の成果を公刊することもできた(なお、この書の出版に対する助成金等は一切ない)。

既に上述したが、本研究者はおよそ 7 年前からドイツ語圏での赤ちゃんポスト研究を行ってきており、シュテルニパルクやカトリック女性福祉協会の運営者やそのスタッフの協力を得てきた。

本研究は、そうした彼女たちの協力を得ながら、深くこの問題の記述・解明を行うことができた。

また、現地の研究協力者として、ウィー

ンの離婚調停員であり、離婚児のケア実践・研究を行っているシュトロバハ(S.Strobach)氏の支援を受け、ウィーンのヴィルヘルミーネン病院の赤ちゃんポストの二度目の視察、現地調査を行うこともできた。

今後も、この連携を強化していきながら、ドイツ語圏の赤ちゃんポスト、否、赤ちゃんポストがその一部となっている「匿名の母子支援事業」についての学術的な研究を続けていきたいと思う。

5 . 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1 件)

柏木恭典、シュテルニパルクの子育て支援と赤ちゃんポスト - ドイツにおける匿名の母子支援プロジェクト、保育学研究、日本保育学会、査読有、第 52 巻、2014 年 12 月掲載予定(ページ未定)

柏木恭典、マリア・ガイス=ヴィットマンの教育思想と匿名出産 - ドイツにおける匿名支援と社会教育の関連について -、千葉経済大学短期大学部 研究紀要、査読無、第 10 号、2014、pp.1-11

http://ci.nii.ac.jp/els/110009794657.pdf?id=ART0010292473&type=pdf&lang=jp&host=cinii&order_no=&ppv_type=0&lang_sw=&no=1403231465&cp=

〔学会発表〕(計 1 件)

柏木恭典、緊急下の女性と匿名性 ドイツの匿名支援の現状とその事例研究、日本理論心理学会、2013 年 10 月 19 日、京都文教大学

〔図書〕(計 1 件)

柏木恭典、北大路書房、赤ちゃんポスト

と緊急下の女性 - 未完の母子救済プロジェクト、2013、267 頁

〔その他〕(計 1 件)

「マリア・ガイス＝ヴィットマンとの対話(1)」、「生命尊重ニュース」、2013 年 10 月号、生命尊重センター

「マリア・ガイス＝ヴィットマンとの対話(2)」、「生命尊重ニュース」、2013 年 11 月号、生命尊重センター

「マリア・ガイス＝ヴィットマンとの対話(3)」、「生命尊重ニュース」、2013 年 12 月号、生命尊重センター

「マリア・ガイス＝ヴィットマンとの対話(4)」、「生命尊重ニュース」、2014 年 1 月号、生命尊重センター

「シュテルニパルクとの対話(1)」、「生命尊重ニュース」、2014 年 2 月号、生命尊重センター

「シュテルニパルクとの対話(2)」、「生命尊重ニュース」、2014 年 3 月号、生命尊重センター

「シュテルニパルクとの対話(3)」、「生命尊重ニュース」、2014 年 4 月号、生命尊重センター

「母子福祉海外視察報告書」(非公刊)
2014 年 3 月

6 . 研究組織

(1) 研究代表者 柏木 恭典
(KASHIWAGI, Yasunori) 千葉経済大学
短期大学部こども学科、准教授
研究者番号：80461771